

エンジニアリングシンポジウム 2024

完了報告書

一般財団法人エンジニアリング協会

2024年のエンジニアリングシンポジウム(10月25日開催)は、日本教育会館 一ツ橋ホールでのリアル開催と並行して、オンラインでも配信する「ハイブリッド」形式で開催しました。

参加人数は会場参加とオンライン参加を合わせ482名と、昨年より30名程増加しました。

昨年に引き続き、一ツ橋ホールのホワイエにて、2024年度エンジニアリング功労者表彰受賞プロジェクトのパネル展示を行うと共に、新たに設計ソフトウェアのデモ体験を実施しました。

アンケートでは、シンポジウム全体の評価として、「非常に良かった」と「良かった」の評価を合わせて、99%の方から肯定的な評価を頂くことができました。また、会場参加者の90%以上が、エンジニアリング功労者表彰受賞プロジェクトのパネル展示または設計ソフトウェアのデモ体験のいずれかを閲覧・体験されました。

以下に2024年のエンジニアリングシンポジウムの概要を報告します。

概要写真(午後の講演)



講演Ⅰ 西日本カーボン貯留調査(株)
古舘代表取締役社長



講演Ⅱ 東京大学大学院 大澤教授



講演Ⅲ 日本航空(株) 西原口執行役員

概要写真(午前の講演、協会挨拶、会場の様子)



JFEエンジニアリング(株) 井上様



清水建設(株) 勝間田様



エンジニアリング協会 石倭 理事長 挨拶



会場内



司会 前野専務理事

概要写真



日本教育会館入口



受付準備の様子



2024 年度エンジニアリング功労者表彰プロジェクト
パネル展示会 & 設計ソフトウェアデモ体験会の案内



2024 年度エンジニアリング功労者表彰プロジェクト
パネル展示会



設計ソフトウェアデモ体験会

交流会



高浜委員長(大成建設(株)
常務執行役員)による挨拶



石倭理事長による乾杯



来賓の経済産業省
製造産業局長 伊吹様によるご挨拶



左から
大澤講師、古舘講師、井上講師、西原口講師



交流会会場の様子

ENAA 一般財団法人エンジニアリング協会 エンジニアリングシンポジウム2024

未来の共生 ～持続可能なエンジニアリングの挑戦

午前の部

【2023年度】エンジニアリング功労者表彰プロジェクト

10:30-11:05 **ケラニ河新橋**
スリランカ初となる都市連続高架橋の建設のプロジェクト紹介
JFEエンジニアリング株式会社 井上 武也
社会インフラ本部 海外事業部 技術部

11:10-11:45 **築川ダムにおける自動化技術の実装と施工管理の高度化によるDX推進**
清水建設株式会社 勝間田 哲郎
東北支店 土木部 工事長

13:00 **協会挨拶** 石俣 行人 (一般財団法人エンジニアリング協会 理事長)

講演Ⅰ

エネルギー問題を考えるということ

13:10-14:10 西日本カーボン貯留調査株式会社 古館 恒介
代表取締役社長



講演Ⅱ

**にぎわう人類と進化するAI
～過去は未来を知っているか?～**

14:25-15:25 東京大学大学院 工学系研究科 大澤 幸生
システム創成学専攻 博士(工学) 教授



講演Ⅲ

**「安全」はあるものではなく、築くもの
～緊急時の備えと日々の訓練～**

15:40-16:40 日本航空株式会社 執行役員 西原口 香織
ソリューション営業本部 副本部長、東京支社長



16:55-18:10 **交流会** 同会館9階「喜山倶楽部」

2024.10.25 FRI

会場

日本教育会館 一ツ橋ホール
(会場参加とオンライン参加のハイブリッド開催)

主催：一般財団法人エンジニアリング協会 / 後援：経済産業省

同時開催

① 2024年度 功労者表彰 受賞パネル展
② 設計ソフトウェア デモ体験会
Hexagon Asset Lifecycle Intelligence division / 株式会社 PlantStream

PDU / CPU
ポイント取得可能

学生限定
無料ご招待
(交流会は除く)

1. はじめに

44 回目を迎えた今年のエンジニアリングシンポジウムは、経済産業省をはじめとする多くの関係者や会員企業のご支援とご協力のもと、エンジニアリング産業関係者の幅広い参加をいただき、成功裏に終了することができました。まずはご尽力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

今年は、コロナ禍に始まった会場とオンラインの併用開催が 3 年目となりましたが、参加者の皆様がそれぞれの良さを活かし、適切な方法で参加され、この方式も定着してきた感がありました。昨年に引き続き、会場を自由席とし、講演後の交流会では通常通りの飲食を伴う形式で開催するなど、コロナ前の正常なエンジニアリングシンポジウムの姿に戻りました。

テーマとして「未来の共生 ～持続可能なエンジニアリングの挑戦」を掲げ、エンジニアリングの取り組みが未来の共生に大きく貢献するという思いを込めました。そのテーマに基づき、各界の著名な講師の方々にご講演をいただきました。

西日本カーボン貯留調査株式会社代表取締役社長の古舘恒介様からは、「エネルギー問題を考えるということ」というテーマで、大量にエネルギーを消費する現代社会をいかに持続可能なものにしていくかについての考え方を提起いただきました。

東京大学大学院教授の大澤幸生様からは、「にぎわう人類と進化する AI」というテーマで、生物のにぎわいを模した仕組みによって、過去のデータからの学習を超えた言葉や現象の意味進化を捉える進化型 AI への挑戦についての踏み込んだ知識をいただき、人が進化を止めないことの重要性を学びました。

日本航空株式会社執行役員ソリューション営業本部副本部長兼東京支店長の西原口香織様からは、「安全はあるものではなく、築くもの ～緊急時の備えと日々の訓練～」というテーマで、航空業界における安全に対する最前線の厳格な取り組みをご紹介いただき、エンジニアリング産業にとっても安全が最も重要であることを再認識させられました。

前年の「エンジニアリング功労者表彰」プロジェクトについては、以下の2件の話を伺いました。JFE エンジニアリング株式会社社会インフラ本部海外事業部技術部の井上武也様からは、スリランカ初の都市連続高架橋であるケラニ高架橋建設プロジェクトにおける困難を乗り越えた挑戦について、また清水建設株式会社東北支店土木部工事長の勝間田哲郎様からは、岩手県で最大の貯水量を誇る築川(やながわ)ダムの建設プロジェクトにおけるダムコンクリート自動打設システムを中心とした施工管理の未来に向けた DX 推進の話を伺いました。

いずれの講演も、エンジニアリング産業の可能性や置かれた環境、人の生き方について示唆に富む内容であり、参加された方々にとって有意義なものになったと確信しています。「エンジニアリングシンポジウム 2024」が実り多いものとなったのも、委員会および事務局の方々をはじめとする関係各位のご協力・ご支援の賜物であり、ここに改めて厚く御礼申し上げます。

2024年11月

一般財団法人エンジニアリング協会
エンジニアリングシンポジウム2024実行委員会委員長
高浜 信一郎

2. 事業内容

2-1 概要

名 称 : エンジニアリングシンポジウム2024
テ ー マ : 未来の共生 ～持続可能なエンジニアリングの挑戦
開 催 日 : 2024年10月25日(金)
会 場 : 日本教育会館 一ツ橋ホール
主 催 : 一般財団法人 エンジニアリング協会
後 援 : 経済産業省

2-2 基本計画

本年のシンポジウムの基本計画を以下のとおり設定した。

経緯と概要

エンジニアリングシンポジウムは、多業種に亘るエンジニアリング関係者が、年に一度、一堂に会して交流するイベントであり、この機会にエンジニアリング業界を取り巻きさまざまな課題とその対応について「会員相互間の情報共有の場」として利用するとともに、業界外に向けてエンジニアリング業界の存在意義を発信する場となる。

本年も本方針のもと、午前は 2023 年度エンジニアリング功労者表彰にて受賞されたプロジェクトの実務遂行者を、午後は産業界・学術界で活躍されている有識者をお招きし、参加者にとり新たな価値観や視野の広がりが得られる機会となるようプログラムを構成した。

運営については、昨年同様、開催形式は会場もしくはオンラインを選択できるハイブリッド開催とし、会場内座席は前列の一部を除き、自由席とした。プログラムは、昨年度のエンジニアリングシンポジウム参加者アンケートの声を反映し、午後の講演を昨年より各々15分間短くし、また交流会も15分間短くして、18時過ぎには終了できるよう時間短縮化を図ることとした。

会場参加者数の増加に繋がるような試みとして、昨年に引き続き、講演会場のホワイエにて2024年度エンジニアリング功労者表彰受賞プロジェクトをパネル化し展示するとともに、新たな試みとして、IT系会員企業2社による自社設計ソフトウェアのデモ体験会を開催することとした。さらに、協会の他のイベントや委員会/部会に参加している会員・学生に対して、今年度よりエンジニアリングシンポジウムのPR活動を行うこととした。

例年、20代社員の参加が他の世代に比べ極めて少ない状況を考慮し、試みとして実行委員会委員会社を対象として20代社員を会場に招待し、エンジニアリングシンポジウムに触れる機会を提供することとした。同時に、今後のエンジニアリングシンポジウムの企画・運営の参考のため、20代社員からより多くの意見・感想をアンケートにて募ることとした。

他に、環境への配慮のため、昨年実施した講演資料の電子化(ペーパーレス化)を引き続き行うとともに、アンケートの読み取りだけでなく、パンフレットの学生参加申込みの欄にQRコードを貼り付け、さらにQRコードの利用を促進し、効率化を図るものとした。

2-3 プログラム

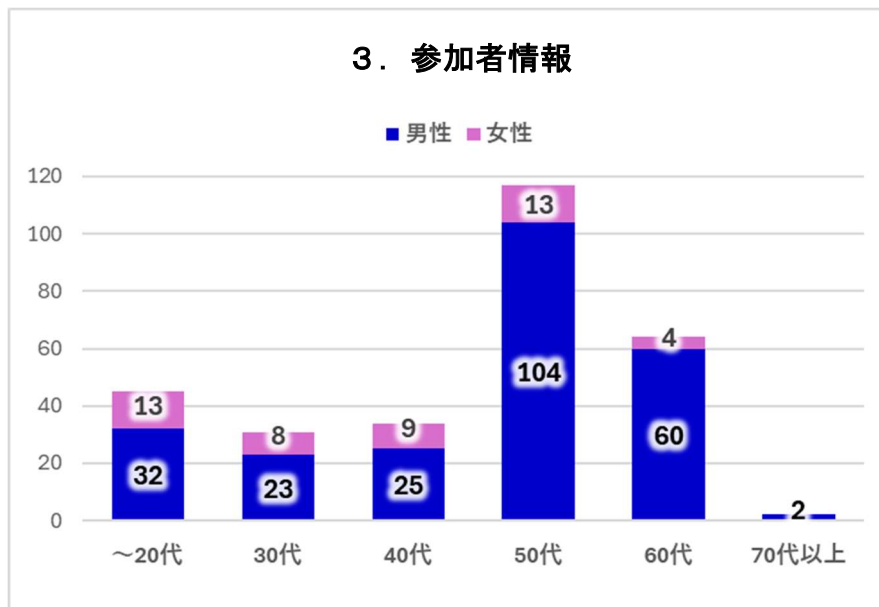
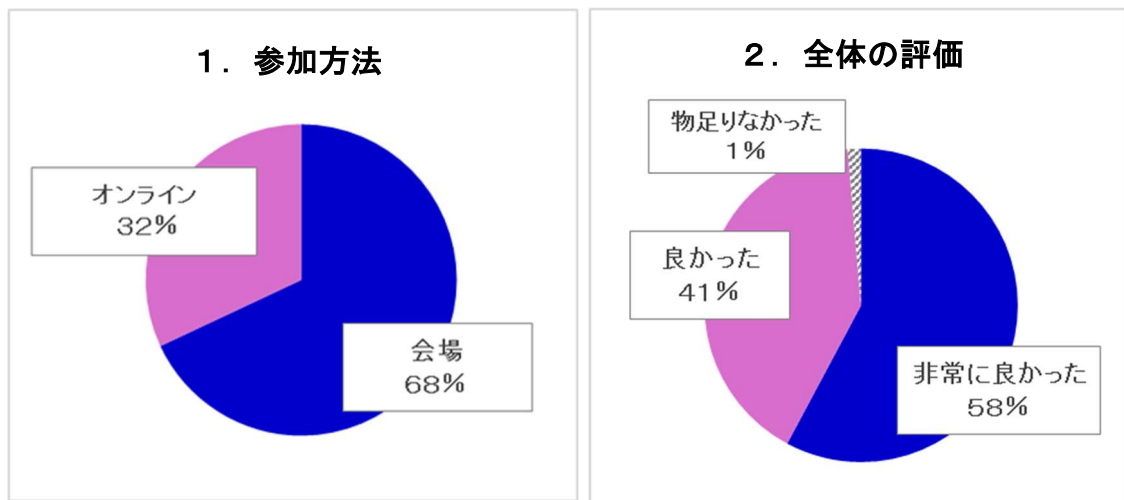
エンジニアリングシンポジウム2024プログラム

敬称略

【午前の部】	一ツ橋ホール(3F)	
10:30 (35分) 11:05 (幕間)	【2023年度エンジニアリング功労者表彰プロジェクト】 1. 国際貢献: 「ケラニ河新橋 スリランカ初となる都市連続高架橋の建設のプロジェクト紹介」 JFEエンジニアリング株式会社 社会インフラ本部 海外事業部 技術部 井上 武也	
11:10 (35分) 11:45	2. エンジニアリング振興: 「築川ダムにおける自動化技術の実装と施工管理の高度化によるDX推進」 清水建設株式会社 東北支店 土木部 工事長 勝間田 哲郎	
	昼休み	
【午後の部】	一ツ橋ホール(3F)	
13:00	【協会挨拶】 一般財団法人エンジニアリング協会 理事長	
13:10 (60分) 14:10	【講演Ⅰ】	「エネルギー問題を考えるということ」 西日本カーボン貯留調査株式会社 代表取締役社長 古舘 恒介
(15分)	休憩	
14:25 (60分) 15:25	【講演Ⅱ】	「にぎわう人類と進化するAI ～過去は未来を知っているか?～」 東京大学大学院 工学系研究科 システム創成学専攻 博士(工学) 教授 大澤 幸生
(15分)	休憩	
15:40 (60分) 16:40	【講演Ⅲ】	「「安全」はあるものではなく、築くもの ～緊急時の備えと日々の訓練～」 日本航空株式会社 執行役員 ソリューション営業本部 副本部長、東京支社長 西原口 香織
	移動(9階、喜山倶楽部へ)	
16:55 (75分) 18:10	交流会	

3. アンケート集計結果

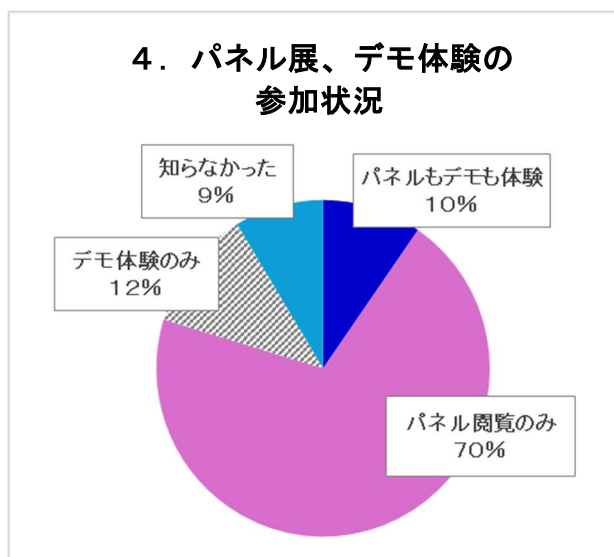
本年は昨年より26名多い294名からの回答を得ることができた。主要な回答を以下にグラフで示す。



1. アンケート回答者の参加方法は、
 (a) 会場参加:68%
 (b) オンライン参加:32%
 に対し、
 申込ベースでは、
 (a) 会場参加:69%
 (b) オンライン参加:31%
 と、ほぼ同数であった。
 なお、学生の回答者は全体の1%(申込ベースでは4%)であった。

2. 全体の評価は「良かった」以上が99%を占めた。

3. 50代以上の参加者が全体の60%を占めているものの、30代以下は26%と昨年の14%より増加。全体の女性参加率も16%と、昨年の10%から増加した。



4. 功労者表彰等パネル展示に加え、本年は設計ソフトウェアデモ体験をホワイエにて実施した。会場参加者の90%以上が、いずれかを閲覧・体験している。